

国際化推進室ニュースレター No3

—新着情報—

◆2007年秋インターナショナルフェスタ開催！

すでにお手元にイベントカレンダーをお届けしたところですが、11月から12月までの2カ月間にわたり、国際色豊かな行事を展開します。ぜひご来場ください。

◆アメリカ・センター大学から交換留学生

(北アメリカプロジェクトチームリーダー：シャルコフ)

平成19年度交換留学生として来学したのは5名です。ドゥルー・キングソルバー、チェイス・ウィルソン、クリス・ラッセル、ギャンプル・レーガン、サラ・ハンフリー。平成20年1月末までの4カ月間、本学の英語で開講される科目群を履修します。

現在本学において英語で開講されている科目は「国際関係論」や「宗教文化研究」、「日本文化論」や「日本の政治」など20科目にのぼります。また、書道や茶道などの実技を含み、交換留学生が受講しやすい科目も20科目相当あります。英語で開講される科目はまた、日本人学生が履修する正規科目となっています。

9月28日(金)には、交換留学生を歓迎するランチが開催されました。江里学長の歓迎挨拶の後、北アメリカプロジェクトチームのメンバー、山口県国際交流員ガラビン・ジョージアさん(アメリカ)が、5名に暖かいウェルカムの気持ちを伝えました。

交換留学生一行は9月27日午後に到着。28日にはオリエンテーション、29日・30日の週末を経て、10月1日から異文化での生活や本学での学習に備えた本格的なオリエンテーションを受けた後、受講を開始しました。外国人登録をはじめ、銀行口座の開設、自転車の引渡し、生活情報の説明、履修上の手続きの説明などなど、数多くのケアが必要になります。また、様々なカルチャーショックに遭遇する交換留学生たちにはコンスタントな異文化カウンセリングを必要とします。

4カ月間のホームステイを引き受けてくださった5家族とは毎月1回のミーティングを持ち、交換留学生とホストファミリーとの間で少しでも快適な暮らしができるよう気を配っています。

<英語で開講される授業を受ける交換留学生>



◆ナバラ州立大学からの交換教員イオスネ先生の講義

(ヨーロッパプロジェクトチーム・リーダー：井生文隆)

教員交流事業でスペイン・ナバラ州立大学から来学しているイオスネ・ゴニ・ウルティア教授 (Prof. Iosune Goni Urrutia) が、2007年10月11日(木)に社会福祉学部の授業で講義をされました。演題は「スペイン・ナバラ州の社会保護制度」。逐次通訳は、本学から一昨年度ナバラ州立大学に交換留学生として派遣された本田ゆめみさんにお願ひしました(国際文化学部3年生)。

日本とヨーロッパの在宅介護の違いに驚いていたイオスネ先生が、今度は社会福祉学部の学生たちを驚かせるようなスペインの介護・年金事情について話をされました。イオスネ先生の県内社会福祉施設訪問をアレンジしてくださったのは、山本佳代子先生です。10月21日に3カ月の滞在を終えて帰国されましたイオスネ先生から、無事帰国したという便りが届きました。「お世話になったお礼に、現在本学からの交換留学中の学生2名のお世話をします」とありました。滞在中は、萩、下関、角島、宮島、広島などにも足を運びました。

<社会福祉学部での講義風景>



◆中国・曲阜師範大学からの交換留学生

(東アジアプロジェクトチームリーダー：馬 鳳如)

曲阜師範大学からの交換留学生は張 艶蓉さんです。今から1年間、国際文化学部の科目を履修します。チューターは馬 鳳如になります。半年早く交換留学を始めた高 静さんのアドバイスを受け、早く日本での生活や本学での学習環境に慣れてもらえればと思います。これで、曲阜師範大学からの交換留学生は2名、青島大学からの交換留学生(大学院生)1名、慶南大学校からの交換留学生は2名となりました。

韓国・慶南大学校からの金 慧娜さんと姜 玗廷さんは、9月27日(木)午後、宮野小学校で開催された国際理解の授業に派遣され、韓国の言葉や文化について小学生に教えました。

◆交換留学説明会開催

平成20年度の交換留学生(派遣)説明会を、10月22日(月)から25日(木)にかけて開催しました。アメリカ・カナダに興味があるのは20名、中国・韓国は5名、スペインは6名でした。語学検定などハードルは高いのですが、意欲の高い学生さんばかりです。今から面接や選抜と続き、派遣決定は12月から来年1月にかけて行なわれます。

－報告－

夏期海外短期語学研修の報告

平成 19 年度夏期海外短期語学研修に派遣した学生たちが、8 月から 9 月にかけて無事帰国しました。中国・曲阜師範大学（中国語）、韓国・慶南大学校（韓国語）、カナダ・ビショップス大学（英語）でそれぞれ約 3 週間開催された語学研修の成果については、10 月 1 日（月）の後期オリエンテーションでの報告会で発表されました。

同時に、昨年度交換留学に派遣された学生の成果発表もあり、A32 教室は約 100 名の学生や教職員で埋まりました。

以下、学生リーダーの報告を掲載します。

夏期海外語学研修報告書

○曲阜師範大学（中国） （国際文化学科 3 年 町田亜花里）

・上海での観光

8 月 8 日福岡空港を出発し、上海に到着しました。上海ではバス観光をしつつ、いくつかの観光スポットを実際に訪れました。お茶屋さんでは日本語の上手な人から中国茶の飲み方を教えていただき、いろいろな種類のお茶に触れることができました。日本でもお茶は飲みますが、飲み方の違いに驚きました。次に東方明珠電子塔、別名上海テレビ塔へ行きました。この塔はアジア第一位、世界第三位の高さです。263メートルの高さまで登り、中国の広さに驚きつつ、そこから見える遠景を楽しみました。

・学校と周辺の様子、週末観光について

曲阜に到着し、学校生活が始まりました。曲阜は孔子のふるさとで、学校には孔子の像があります。学校周辺で最も面白いのは、東門（dongmen）という、学校の東の門を出たところにある市場です。正門は南にあり、ここを出ると舗装道路になっていますが、東の門を出たところは土ぼこりを上げながら車や自転車が通る市場になっていました。鶏をさばっていたり、犬の肉を売っていたり、服や新聞などもあり、何でも並んでいました。てんびんで量り売りをしている様子も見ました。このように、現代的なものや昔らしいものが混在している興味深い場所に学校があり、ここで約 2 週間をすごしました。週末には、孔子生誕地や、孔府、孟府、泰山などへ行き、中国の歴史と自然の雄大さを感じました。

・学校の授業

約二週間、曲阜師範大学で授業を受けました。授業はすべて中国語で行われました。午前中は毎日中国語の授業で、科目はリスニング、会話、文法の三つです。午後は中国文化に関する授業を受けました。書道、美術、音楽、武術があり、武術では太極拳を、音楽では民謡を習いました。書道は日本でもなじみのあるものですが、美術では中国独特の技法を使って梅の花を描きました。この画の特徴は、墨をつかうことと、書道と同じ毛筆で描くということです。

・中国家庭の訪問

二週間の間に中国人学生の家庭を訪問する機会がありました。コミュニケーション

は筆談をしつつ、中国語で行いました。テレビや音楽など、共通の話題がたくさんあったことに驚き、またそれが交流するうえで本当に大きな役割を果たしているのを実感しました。そして夕食をごちそうになったのですが、中国では日本のように「いただきます」を言わないことに気付きました。学生もご家族の方も、みな親切で、楽しいひとときを過ごすことができました。

・スピーチコンテストとチャイナドレス

二週間の学習成果の発表の場であるスピーチコンテストが行われました。中国語で原稿を用意し、中国人の先生方や学生たちに協力していただいて原稿を直し、発表するというものでした。題材は自由だったので、曲阜での思い出や中国人の良い気質など、それぞれが自分の伝えたいことを文章にしました。準備は大変でしたが、自分の伝えたいことを中国語で表現する良い機会となりましたし、中国語を用いる良い練習にもなりました。このスピーチコンテストで、私たちはチャイナドレスを着て参加しました。これは学校の近くのお店でオーダーメイドしてもらったものです。今では結婚式など正式な場でしか着る機会のない衣装だそうですが、こうして中国の衣服の文化にも触れることができました。

・日照キャンパス

曲阜師範大学のもうひとつのキャンパス所在地、日照も訪れました。日照は字の通り、日がよく照るところで、山東省の中でも気温の高いところとして知られています。日照は海に面しており、海岸の見学もしました。美術学部を見学し、中国独特の画を描いているところや、学生たちの作った他の作品も見ることができました。そして、日本語学科の学生との交流もしました。皆日本語が上手で、母語が異なる人と共通の言語で話せるという喜びを実感しました。

・済南

曲阜での学校生活を終え、済南へ行きました。済南は山東省の省都です。ここには空港があるので飛行機での移動のために訪れましたが、観光もしました。済南は別名「泉城」と呼ばれている泉の多い町で、街のシンボルにもなっています。72の泉がある公園へも行きました。観光名所の近くでは物乞いをして必死に生活している方も幾人か見かけ、中国の社会の一面を知ることができました。タクシーに乗って街中にも出かけました。

・北京

済南から北京へ移動し、二日間観光をしました。一日目は北京郊外の観光で、明の十三陵、万里の長城の八達嶺、頤和園へ行きました。二日目は北京市内の観光で、故宮、天安門広場、景山公園、王府井での散策をし、雑技を見ました。北京では、来年の夏オリンピックが開催されます。鳥の巣と呼ばれる、オリンピック本会場をバスの中から見るすることができました。また、万里の長城や、王府井のマクドナルドにある看板など、オリンピックに関するものが至る所で見られ、人々の意識が高まっているのを感じました。北京は文化と政治の中心地であり、やはり経済の中心地である上海とは雰囲気の異なった都市でした。

・他に気付いたこと

朝早くから、夜遅くまでたくさんの方が外に出て、運動したり、授業の予習をしたりしている姿を見かけました。また、小さな子どもがおむつではなく穴の開いたズボ

ンをはいていることにも驚きました。そして、学校が、小さな子供からお年寄りまで行きかうひとつの町であり、校内には何でもあることも日本と大きく違うことでした。写真屋、花屋、風呂屋、肉屋、本屋、CD 屋などを見かけましたし、わたしたちが宿泊したビジネスホテルも学校内にありました。校内にはお湯を汲む場所があつて、朝も夜もたくさんの人が水筒やポットを持ってお湯を汲んでいる光景も印象的でした。中国人の家庭では、トイレとシャワーが同じ空間にあり、バスタブがないことにも気付きました。

・まとめ

中国でお会いした方は、こちらがつたない中国語を話しても、皆理解しようと努めてくださり、さらに、初めから言葉を理解できないだろうと思って何も教えないのではなく、たくさんのお話を中国語で話して教えてくださいました。このように中国の方々のあたたかさやふれたこと、また、観光などを通して中国の長い歴史と雄大な自然を感じたこと、さらに観光だけでなく、中国で実際に生活してみようということを通して、中国と中国人の方に今まで以上に親しみをもつことができました。この 26 日間の短期語学研修で中国に対する理解を深められたこと、これからもさらに語学を頑張りたいと思えたことは、大きな収穫だと思います。異文化にふれることの大切さを教えていただいたことに感謝しています。

○慶南大学校（韓国）

여러분,안녕하세요. (国際文化学科 3年 河内亜衣)

私たちは、8月12日から30日まで、韓国の慶南大学校に語学研修に行ってきました。毎日がとても充実していました。これから私たちが過ごした日々をご紹介しますが、そのときの思い出がまとめてあるレポート集も別途発行しています。

慶南大学校はとても広く、正門から私たちが利用していた寮まで歩いて約15分かかります。大学が高いところにあるので、とんでもなくきつい勾配の心臓破りの坂を毎日上り下りするのが大変でした。

研修のプログラムは韓国学講座、韓国文化講座、慶州・ソウル研修、ホームステイ、スピーチコンテスト、フェスティバル、修了式と、多様な内容となっていました。毎日、午前中3時間は韓国語講座でした。初級、中級、上級に分かれて授業が行われました。初級と中級は教科書に沿って勉強しました。上級は、教科書をほとんど使わず、口頭で授業が進められました。

礼儀作法の授業では、韓服を着ておじぎと、正月の挨拶の仕方を学びました。サムルノリの授業では、韓国の伝統的な音楽を学びました。みんなで輪になって、歩きながら楽器を演奏しました。楽しみながら韓国の伝統音楽を体感することができました。扇子づくりでは、様々な形のうちわのなかから自分の好きな形を選んで、大極旗をそれぞれの感性で自由に描きました。また、お皿作りでは白いお皿に自分で紙を切り貼りして、オリジナルの皿を作りました。このうちの一部はトウミのみなさんに寄せ書きを書いてあげました。トウミのみなさんはとても喜んでくれて、私たちも嬉しかったです。テコンドーの授業はみんな専用の胴着を身に着けて、韓国人になりきって、型を学びました。最後の試験では野村君が見事な撃破を披露してくれました。A+の成績をもらいました。

フェスティバルでは、このプログラムに参加したいろいろな国からの学生たちが、各々の学校紹介をしてくれました。私たちも精一杯がんばりました。また、慶南大学校の学生や、ロシア、タイ、インドネシアから来た学生たちが歌やダンスを披露して

くれました。そのあとは、立食パーティー。その日は大いに盛り上がりました。

地域研修では慶州とソウルに行きました。慶州まではバスで3時間、ソウルまでは5時間かかりました。慶州には教科書にも載っているような歴史的な建築物などがたくさんありました。世界遺産に登録されている仏国寺というお寺にも行きました。ソウルには1泊2日で行きました。韓国ドラマに出ている景福宮や南山タワー、国立中央博物館、インサドンに行きました。ソウルは大都会で、街がいきいきしていました。

ホームステイは1泊2日でした。日本語が話せない家庭でお世話になった人も多く、最も韓国語を使うことができる機会だったと思います。各家庭ではいろいろなところに出かけたり、料理を作ってもらったりして、とても楽しい時間を過ごせました。

スピーチコンテストでは、各々がこの研修を通して感じたことを韓国語で発表しました。前日にトウミの人たちに助けをもらいながら原稿作成をしたので大変でした。県立大学からは、河内亜衣さんが自由賞を授賞しました。

この研修中に様々な韓国料理を堪能しました。トウミの人たちがおすすめの店に連れて行ってくれました。サムギョッサルや冷麺、ピンスなど、おいしい料理やデザートがたくさん食べました。帰ってきてから、安くておいしくておなかいっぱいになる韓国料理が恋しくて仕方ありません。飲み会では他大学の人たちや外国の人々と仲良くなりました。なかにはポンデギを食べた人もいました。ポンデギというのは、幼虫を炒めたおつまみです。

修了式では大学ごとに前に出て、修了証をいただきました。最後ということで、お世話になった先生方やトウミのみなさん、他大学の学生と一緒に、写真をたくさん撮りました。この研修を通して、私たちは本当にたくさんの友達を作ることができました。これもひとつの収穫です。今でも、メールで連絡をとりあっています。

研修中、トウミのみなさんには本当にお世話になりました。親切すぎるくらい、常に私たちのことを気にかけてくれて、本当に感謝しています。私たちは、この研修でメディアからは見えてこなかった韓国社会、そこに生きる人々を実際にこの目で見て、韓国を肌で感じることができました。韓国人の感情の露出の大きさに驚くこともありました。その熱いくらいのやさしさに感動しました。

言葉はあまりわかりませんが、少ない単語とジェスチャーで必死に伝えようとし、それが相手に伝わったときはうれしかったです。言葉が通じない環境にいたことで人との助け合いの大切さもわかるようになり、言葉だけではなく、今後社会に出て行く上で必要なものも学ぶことができました。これからは研修で体験し経験したことを活かしていけるよう努力したいと思います。

○ビショップス大学（英語）

（国際文化学科 2年 笠井 雄太）

9月1日から24日まで3週間カナダに短期語学研修に行ってきました。

9月3日から授業が始まり、月曜日から金曜日の3時まで授業を受けました。授業では文法の基本的な使い方から、プレゼンテーションやゲームを通してのスピーキング練習、ビデオのニュースからのリスニングなどを行いました。今まで日本で学んできた英語の授業とは違い、英語を楽しく学ぶことができました。

放課後には様々なアクティビティがありました。1週間は林檎狩りやボーリング、世界一長い吊り橋など近場の観光スポットに行きました。2週間目には大きなイベントであるジャパンナイトがありました。私たちは浴衣や甚平を着てホストファミリーを迎え、私たちが作った日本食を食べてもらい、習字や折り紙、けん玉など日本の遊びを楽しんでもらいました。約60人が集まり、日本文化を通じての交流はとても充実

したものでした。3週間は BANQUET があり、3週間の授業を終えた証として修了書をもらいました。

週末にはケベック、オタワ、モントリオールとカナダの大きな都市に観光に行きました。ケベックではクルージングを楽しみ、また昔からの古い建物が並んでおり、ケベックの歴史を感じることができました。首都であるオタワでは国会議事堂を訪れ、カナダの政治について知ることができ、市民会館ではカナダの古くからの歴史を学ぶことができました。日本に帰る前に訪れたモントリオールは大きな都市で町の中を歩き回って、最後のカナダでの生活を楽しみました。

こうして長いと思っていた3週間もあっという間に終わりました。その3週間の中で授業はもちろん、ホストファミリーと過ごした思い出、週末の観光など様々な経験をしました。9月に行ったということもあり、向こうの学生と交流する機会も多かったです。周りは英語だけで、また授業で学んだことをすぐに使えるという素晴らしい環境の中で過ごすことができ、英語の上達にも繋がったと思います。平均すると TOEIC スコアで 100 点近く上がったという成果は、このプログラムの質を物語っていると思います。また、英語を学ぶだけでなくホストファミリーと過ごすことでカナダという異文化をじかに経験することができました。この3週間で学び経験してきたことを今後無駄にしないように活かしていきたいです。